

時局の保育、時局の影響を各地幼稚園に聞く

國を擧げて非常時一色に塗りあげられてゐるこの時局、自分の零園氣に敏感な幼兒達の心にもきつとどんなにかまふの影響がある事と信ぜられる。この道の同志相共に行脚しあつて、子供等の上を語り合ひ、發奮もし驚きもし且つは笑ひ合ひもしたいのが私共の願ひである。そこで各地の幼稚園の先生方に次の二項について御問合せをした。先生方は内外御繁忙の折柄にもかゝらず、喜んで、御回答をお寄せ下さつた。こゝに厚く御禮を申上げる次第である。

私共は一堂に會し、胸襟を開いてこの事柄について語り合ふつもりで、各地の幼稚園の御方針、子供等の上を心に辿りながら拜見して行き度いと思ふ。

尙ほ御實行になつて居られる事や、子供等の様子等引きつゞき、細大御報告下さるやうに切望して止まない。(編輯部)

A、現下の時局、貴園に於て幼兒教育上注意し實行して居られる事に就て

B、現在の時局が如何に子供等に映じて居るか それについての御感想等

(A)

一、應召者の家族慰問

皆様お記憶の新なる事でございませう。去る七月日支事變が起りました。事件の重大化しない様とに心密かに祈り致して居りましたものゝ戦火は却つて擴大するばかりで空氣は日に日に險惡化して參る様に考へられます。應召者の家の門札もあちらこちらに多數見受ける様になりました。勿論私共園児の家庭からも十人餘りの方々が勇躍壯途につかれました。其の都度さうした方々の園児を取園んでは御無事に凱旋出來ます様にと一同で心をこめてお祈り致しました。同時にお父様やお兄様の出征してお留守である子供達をお慰めし元氣をつけてやる様注意致しました。お友達にはよく其の譯を云ひきかせて一層仲好く遊ぶ様にとお約束も致しました。此のお約束は案外子供達の間によく守られて實行されて居ます。

應召者の子供と雖も園に於いては今の所ちつとも淋しい變つた様子が見え、寧ろ誇り氣に元氣で朗かに見えます。其の他家庭の方には私共の力の及ぶ限りに於いて通信訪問等致して勵まして居ます。

二、神社参拜

毎月一日、十五日には一同に時局に關するお話をした上近くの

縣社櫻山神社に參り、子供相應に武運長久をお祈り致して居ます。

又秋の日和には箒な手にして園児は境内の掃除を致しました。眞剣に神様のお庭を箒く姿。兩手を合せて祈る様子、神様も屹度何なにかお感じ遊ばした事でございませう。

三、國旗掲揚

午前八時十五分には朝の冷たい空氣をゆるがして響いて來る國旗掲揚の歌に合せて、國旗は靜かにゆるやかに空高く揚げられます。此の時園舎内外を問はず、どんな遊びに耽つて居る子供も自然に直立不動の姿勢をとり、國旗に對して最敬禮を行ひます。

此の時の雰圍氣は實に緊張した中に壯嚴なるものを感じます。又朝の會集に於いては、皇居を遙拜して皇室の彌榮をお祈り申して居ます。

四、幼兒の體育上特に留意して居る點

1、榮養食指導

第二の國民の保健増進を願ふ所から家庭との連絡を計り、園児の晝食時を利用して、偏食矯正、嗜好、榮養方面に注意して參りましたけれども、今尙考慮を要する點が多々見受けられますので、去る十一月二十二日には第一回榮養食試食會なるものを催しました。當校の講習科生の手になる榮養料理を、園児と其の母姉の方々と試食を致しながら、本校家事科高橋キツ先生の

御話を戴きました。其のためか其後園児の辨當には、家庭の嬉しい心遣ひが伺はれて頼もしく存じて居ます。今後色々の方法によつて、かうした會合を續けて參りたい考へてございます。

2、寒さに負けぬ子供に

北國は冬に入りますと雪の日が大部分でございます。此の自然の風雪に即した生活を考へて、強い子供を作りたくと努力致して居ります。少し位の寒さにかじかんでストーブと親しむ様であつてはならぬ様、スキー、スケート、橇遊び等を多く取り入れ、元氣な風の子、雪の子供にして行きたいと思つて居ります。只今では園庭の一部に雪の山を築き、これを中心に盛んに活躍を致して居ります。

これからも時々園外に連れ出して大いに雪の中の保育を致す考へてございます。又軍歌を歌ひ乍ら雪中行進等をして意氣を鼓舞して行くのも樂しみです。

五、其他

家庭の貧富に拘らず節約利用は何時の時代にも必要な事でございますが、特に現時に於いては注意を要するものだと思います、先づ手技製作に於いては、材料に無駄のない様に、其他水道燃料の使用にも保姆自らが心して取扱ひ、其の態度から子供を導きたいと思つて居ります。

(B)

Bの問題にお答をするために子供の環境と現在の生活の姿を書きつらね、然る後取扱ひ上の感想を申し述べて見たいと存じます。

私共の園児の家庭は、當市に於ける殆ど中流以上の所でございまして、新聞雜誌は勿論の事、ラヂオの据付も相當にございします。

又園児の中には此の頃のニュース映畫に連れて行かれる者が多い様に見受けて居ます。其他市中からは毎日の様に軍歌の叫びが漏れて參ります。かゝる環境に生活して居る子供達には、今回の支那事變の突發した七月以來、平素はきく事の出来ない時局語を随分と覺えました。其の一例を申し上げますならば、トーチカ、クリーク、上海陥落とか、占領とか、南京空爆、燈火管制等で時局認識も相當に深まりつゝある様に思はれます。例へば子供の話を横ぎきするに「日本は支那と戦をして居るんだ、日本兵は強い、支那は日本の云ふ事をきかない」等、又軍歌では相當にむづかしい内容をもつた、日本陸軍の歌詞を十番迄暗記して歌ふ事が出来ます。勿論歌詞の内容は理解して歌つて居るのではないと思ひます。

自由畫、積木に現れて來るものにも戦争に關したものが大半を占めて居ます。自由遊びの大部分も戦争ごっこに屬するもので、

子供達は全體として非常に活潑になつて、亂暴な位に思はれる事もあります。男兒に於いて特にさう感じます。此の様に殺氣立つて落着きの薄らいで居る子供達に更に積極的に時局を認識させる事は幼児にとつて如何なるものか研究を要する問題でございませうが、さりとて環境より自然に受ける此の時局熱を押へる事も出来ません。私共は只子供達の感じて居るものを正しく善導致したいと考へて居るものでございます。

以下申述べる保育豫定案は、其の考へで立案實行致したものでございまして、子供達の心の動きを捕へて遊ばせ乍ら靜かに、ナイチンゲールの戦場の勇士を慰める博愛の念も養ひ、又慰問袋を作り乍ら銃後の温いつとめにも觸れさせた靜かな語り合ひをしながら、元氣な漲りを善導致したいと念じて保育して居るものでございます。

尚ほ最近の保育の一端を御披露し御參考に供し度いと存じます。

最近一週間の保育豫定案

年少組

十二月一日水曜日 生活發表(兵隊さんに關したものの)

唱歌遊戲(日本陸軍、兵隊さん)

紙芝居(乃木將軍)

十二月二日木曜日 自由畫(武器遊具)

手 技(慰問品、財布、お金)

十二月三日金曜日 觀察(繪本新聞切抜)

手 技(肩章、勳章)

お 話(觀察の後それ等を中心)

十二月四日土曜日 唱歌(落葉の兵隊さん——新教材)

——無敵飛行氣少年航空兵

——(既習のもの)——

手 技(双眼鏡、慰問品、慰問袋)

十二月六日月曜日 手 技(慰問袋完成、切符、タンク)

遊 戲(汽車、飛行機)

十二月七日火曜日 お 話(時局に關するもの)

遊びの役割配當、

召集令降下の場面より出征兵見送り戦争こ

つこ迄、

或る日の保育

期 日 昭和十二年十二月四日(土)午前十時より午後一時迄

題目 兵隊遊び中心

題目設定要旨(年長組にも共通)

時局熱は相當に高い。感受性の強い子供達には時局に對する周囲の情勢を子供ながらに感じてゐることは彼等の遊びを通して實證されることである。話題の中心を聞くにつけ自由遊戯を観るにつけ其の大半は戦争ごっこ、軍歌等で、元氣を通り越し時には亂暴さも發揮して取扱上注意を要するものさへ多々見受ける。私共保育者は常に幼兒を取圍む環境の動きに注意し、子供の心の動きを洞察してそれを正しく導くことに努力すべきであると思ふ。かゝる意味に於て生活の中心を兵隊遊びに取つて見た。

十二月四日の保育豫定案表(年少組) 受持保母 井田淑子		
項目	其の内容	場所
自由遊戯	繪本觀察 朝の御挨拶 オルカン お友達は仲よく 積木遊び かごめくよく 飛行機とば あやとり 雪遊び の態度心持	園舎
	生活訓練	園舎
	期待效果	園舎
	時間豫定	園舎
	頃迄	園舎
	頃より十時	園舎
	内	園舎
	外	園舎

會集		手技		唱歌		自由遊戯		辨當	
御挨拶	ラオ體操	雪のなげ	木進切	舌正	砂遊	仲よ	日本	後食	當始末
遊具の始末	用具の始末	準備後始末	準備後始末	準備後始末	準備後始末	準備後始末	準備後始末	準備後始末	準備後始末
規律生活へ	規律生活へ	規律生活へ	規律生活へ	規律生活へ	規律生活へ	規律生活へ	規律生活へ	規律生活へ	規律生活へ
十時十分	十時十分	十時十分	十時十分	十時十分	十時十分	十時十分	十時十分	十時十分	十時十分
遊戯室	遊戯室	遊戯室	遊戯室	遊戯室	遊戯室	遊戯室	遊戯室	遊戯室	遊戯室

自由遊戯		紙芝居	お座敷でか け廻らぬ事	感情の洗練	一時頃迄	お座敷
集合		退場	お座敷でか け廻らぬ事	感情の洗練	一時頃迄	お座敷
退場		お座敷でか け廻らぬ事	感情の洗練	一時頃迄	お座敷	お座敷
退場		お座敷でか け廻らぬ事	感情の洗練	一時頃迄	お座敷	お座敷
退場		お座敷でか け廻らぬ事	感情の洗練	一時頃迄	お座敷	お座敷
退場		お座敷でか け廻らぬ事	感情の洗練	一時頃迄	お座敷	お座敷
退場		お座敷でか け廻らぬ事	感情の洗練	一時頃迄	お座敷	お座敷
退場		お座敷でか け廻らぬ事	感情の洗練	一時頃迄	お座敷	お座敷
退場		お座敷でか け廻らぬ事	感情の洗練	一時頃迄	お座敷	お座敷
退場		お座敷でか け廻らぬ事	感情の洗練	一時頃迄	お座敷	お座敷

今日の生活の内容説明

自由遊戯

師走の風は冷たい。元氣旺盛な子供達はそれを厭はず早くから兄弟お友達或は一人で機嫌よく登園する。保姆は其の前に登園し、氣持よく子供達を迎へる。「お早う」の御挨拶も此頃は忘れないで出来る。何といふ力のある聲でせう。輝やきのある眼でせう。お玄關に一步入れば、お家であつた事、見た事、聞いた事を得々として語る。發表する嬉しさ、聞いて戴く喜び——だが子供達は一々意識はして居まい。唯語りたいのであらう。大人の氣持で良い加減に取扱つてはいけない。男兒は積木ごっこ、飛行機とばしで大童、女兒はオルカン弾き、あやとりに夢中、さうした中に團體的な遊びを自然の中に入取る。お友達への親しみも増して來る事と思ふ。氣分の悪い機嫌の悪い者は居ないか注意を拂ひ、全部の子供に眼を通し、愉快に過させる。

會集

今日一日の生活への第一歩である此の朝、和やかな中にも生活訓練に力を入れ自然の中に良い習慣をつけさせたいと願ふ。特に留意して居るのは國旗掲揚時の態度と心持である。私共自ら敬虔な態度をとり、指導する。さはやかな朝の自由遊戯によつて童心の美しい芽が伸びて行く事を環境より推してうなづかせるものがある。子供達の遊びを通してよく分る。

全く自由な世界に伸々と遊び、思ひ思ひの遊びに自己をいかしお友達同志よく出来る。一時を過した頃「お集り」の聲がかゝると各自の遊びを止め、後仕末も早く、おうがひや、お支度にかゝる。準備の出來た者から並ぶといふ子供達同志の申し合はせは何時の日も固く守られてゐる。會集に臨むに當つて、お並び迄のお約束はよく守らせる。八ヶ月の幼稚園生活によつて隨分心の芽が開いて來た様に思はれる。困つてゐるお友達を慰める黙つてゐてもお手傳ひをする、何といふ純眞な友情の現はれであらう。

全部揃つて遊戯室に向ふ。樂器によく合はせ行進も立派にさせる。今日のお約束は、よく伺ひ、忘れない様にと話す。

唱歌遊戯によつて尙一層愉快な氣分になるらしい。左右前後の區別のつかなかつたラヂオ體操も見様見まねで間違へずに出來

る。別紙の通り會集には季節に因んだもの、二人でするものを選んで。はつきり覚えて居ないもの、完全に習つて居ないものもあるけれど年長の方のを見て、一人残らず最後迄する。スキップを取入れたのは子供達の切な希望である。得意になつて「嬉しい事この上なし」といふ様な顔つきで力いっぱい一廻りする。元氣な中にも子供なりに、心持も態度もきまりよく本氣でする様にしむける。

手技

手技計劃の續きとして男兒には雙眼鏡を作らせる。一日のお仕事として一人で作るには困難の様に思はれたので二人で合作させることにした。女兒には慰問袋と慰問品を作らせる。二組に分れてさせる。グループに分けてさせるものは一寸面倒でもあるが、物によつて、割にうまく指導出来るものである。この場合には其の子の得意なもの、興味のあるものをさせる方が結果として良く現はれる。又指導も樂であるが何時もこれに基くやらせ方では弊害が伴ふ恐れがあるから逆に取扱ふ事も必要である。慰問袋と慰問品は共同製作の部類であるから、割合、繪の得意な子供達には兵隊さんへ送る爲の自由畫を、貼り方の上手な子供達に袋を作らせる豫定であるが、子供達の希望も入れる準備はしてなく。説明はグループに分れてからはじめ、巡視す

る。準備、後始末は一人で自分のは勿論お友達の製作品も大切に取扱ふ様、良い加減にしない様にしむける。

日頃の訓練が大事である。かうする事によつて、ものに對しての心持が違つて來ると思ふ。

作品を通して遊びへの喜び、興味、期待が尙更深くなる事であらう、又その様に誘導しなければならぬ立場の私共である。

唱歌

手技を終へた者は自由に遊ぶ。全部揃つてから唱歌に移る。注意散漫の子供、餘り興味の持てない子供の位置を最初にきめてなく事が必要である。指導者の近くに居ないと、他の者の邪覺をなし、騒ぎ出して丁ふから成るべく眼の届く所になき、注意深く指導する。新教材「落葉の兵隊さん」は歌詞は三番迄あるが内容は複雑でなく、子供の生活に近いものであるから年少組に取扱つてもよいと思ふ。一番だけ指導する豫定であるが早く覺え「もつと其の次も」と希望する様であつたら二番に移つて見たいと思ふ。最初に歌詞の内容を説明し、よくのみこませ、興味を持たせてから弾いて歌つてみせ、次に適當に區切つて少しづつ、歌はせて行く。すべてあきさせない様に續けて行く工夫が肝要である。既習の「無敵飛行機」「少年航空兵」は子供達の得意の歌である。勇ましい、そして輕快な情の湧くものである。男

兒本位の様であるが、女兒も結構興味を持ち負けないで歌ふ。早く曲を覺える割に歌詞が曖昧で發聲方面も不充分である。合唱の時には氣付かないが一人で歌はせると良く分る。これ等を考慮して落度のない様指導する。切迫感がないと懸命になれないものである。結果も勿論大事であるが、その過程に細心の注意を拂ひ臨機應變の處置をとる事が必要である。

自由遊戯(友達さがし)

全部にさせるといふのではなく、年長と一緒に加はりたい者が寄つて來るといふ形で行く。前に數度して大變に興味があり眞劍になつてする遊びである。お友達に親しみの情の湧く心持の方から眺めても、注意力を練る方面から眺めても好ましい遊びである。度數を重ねる事によつて上手になりこの遊びを続ける大事な點ものみこみ、増々熱狂する。

寒くて遊びが不活潑の頃を見計らつてさせるのも一法である。喜びの餘り亂れさせない様考へて続ける。又同時に子供達の疲勞の程度に應じて中止させる。

辨當

活動時間が相當に長い丈にお腹もよくすく。保姆も準備を手早くして、すっかり整つた中に子供達を迎へる。

食事教育はいふまでもなく、重要視しなければならない事であ

るが、子供に應じた無理のない方法でなければいけない。戴く間だけでなしに食事前後の禁に注意する。大體顔つきを見れば用便が済んで居ないか分るから粗忽のない中に先手を打つこの心構へが必要である。

お手洗ひ、おうがひ、お仕度を順々に靜かにすませ、全部揃ふ迄お行儀よく待つ、綺麗に整頓されたお部屋に氣持よくみんなと戴くこの氣分が雰圍氣が、幼い者の心の奥に残つて行く様願つてやまない。子供なりに食物に對し又親に感謝の氣持が湧く様語り合ひの中にしむけてゆく。「戴きます」の御挨拶をして一齊に食べ始める。お隣り同志、お向ひの方も、そのお隣りもにこ〜。お話合ひも面白く進められる。子供の世界のニュースが傳へられる。子供の間で起きた問題はお互ひに解決して行く。共同生活の樂しさが此處にも伺はれる。時によつて榮養方面の事も具體的に話し、偏食、好嫌ひのない様、無理の行かない程度にだんぐに導いて行く。「御馳走様」も必ずさせ、後始末も各自にさせる。これ等のお約束は完全に守られて來た。

自由遊戯(紙芝居)

食後はすぐ大騒ぎにならない様、健康方面から考へて、すんだ者より、お座敷で紙芝居を観る。「雀のお宿」「桃太郎」は數ある中で最も喜ぶものであるから取り入れてみた。美しい繪を觀、

綺麗なメロデーを耳にして、どろりとした気分になる。浴に入ることによつて情操陶冶の一端が養はれる事と思ふ。

集合退去

午後のお遊びは元氣を通りこして亂暴にさへなる。無理もない事だ。危険のない様良い遊びへと導く。一時過ぎにお歸へり仕度をはじめる。遊具の始末は勿論の事、生活訓練の個所に記入してある通りに實行させる。

些細な事ながら子供達にとつては大切な事項である。途中困らない様、幼い者には殊更身仕度を吟味する。美しい音楽によつて氣持を落着かせ機嫌よく歸宅させる。今日一日の終りであり、明日の生活への連續であるこのお歸りの一時を手落のない様にと考へる。ともすると目的にばかり走りやすく、又其の反對に末梢的な事にこだはり、大事な子供の今の氣持をこはさない様深く反省し、かたよらない様に子供の伸びようとする芽をつみとらない様、その指導に當らなければならぬ。

朝と同じに玄關に立ち、全部の子供を送り出す。

年 長 組

最近一週間の保育豫定案

十二月一日 水曜日 生活發表 (兵隊さんに關するもの)

唱歌遊戲(日本陸軍、兵隊さん、航空兵)

十二月二日 木曜日		紙芝居(乃木將軍)			
観察問答(新聞切抜きの絵について)		手 技(軍刀、軍艦)			
十二月三日 金曜日		自由畫(戰爭に關したもの)墨繪			
手 技(飛行機、飛行船)		十二月四日 土曜日			
話(ヒカウキ)		手 技(軍帽、看護帽)			
十二月六日 日曜日		レコードコンサート(軍歌物)			
手 技(幟、シグナル、汽車)		十二月七日 火曜日			
ハリエ(高射砲、兵隊)		お 話(時局に關するもの)			
遊びの配當、		兵隊遊び(召集令降下の場面より見送			
風景と戦争(こゝ)		十二月四日の保育豫定案表(年長組) 受持保姆 高田尙			
項目	其の内容	生活訓練	期待效果	時間豫定	場所
自由遊戲	繪本觀察	自分の持物	自由感の充	園児の登園	園舎
紙ヒカウキ	紙屑の片付け	上	自發性の向	ふ迄(午前)	園舎
鬼ごつこ	國旗掲揚時	國旗に對心	七時四十分	頃より十分	内外
雪遊び	この態度と心持	持	頃迄)		

自由遊戲	お辨當食	自由遊戲	手	お	習
紙芝居	後始末	椅子とり	女男：軍護帽	話	集
桃太郎	食事の準備	事	女：看護帽	ヒカウキ	日本陸軍
静かに見る	嚙む事	お友達が見	糊の使ひ方	ない	お手々おひ
感情の洗練	食事の作法	練習	喜比への期待	味の認識と興	心身爽快の
午後一時頃迄	午前十一時	午前十一時	午後十一時	午前十一時	午前十一時
お座敷	保育室	遊戲室	保育室	保育室	遊戲室

退 集	出 合	歸り仕度
供可 愛ゆき 子	お歸りの歌 手チ 方途 中の 歩 き	
	くお 友達 仲よ	
		午後一時よ
		遊戯室

自由遊戲

今日の生活の内容説明

一日の過程の出発は朝である。朝の自由遊戯は言ふまでもなく家庭生活の延長であるから、自由の感じを充分に與へねばならぬ。保姆は園児より一足先立つて登園し環境整理のため、きれいに清掃して園児を心より喜んで迎へてあげる。校門をくどるとすぐ先生を見付けて遠くからお早やうと言ふ子供達、そしてお家であつた出来事をいろ／＼と話して聞かせて呉れる。

幼稚園に入るとすぐ各々の玩具を持出して遊び始める。女の子供達はストーブの側であやとりとか繪本等を見たりして女らしく靜かな遊びに耽つてゐる。男の子供達は少し位の寒さも何のその、積木遊び、戦争ごっこ、鬼ごっこ等、五六人グループになつて遊びに一生懸命で、自由感を充實させて居る。子供の遊びはやはり生活の働き、環境、季節によりいろいろ變化する。此の頃、紙ヒョーキが盛に流行して來たのも、時局の影響とか、寒くて外で遊ばれない爲であらう。

でも仲間よりはづれたり、遊びへの誘導物がないために遊びへ夢中になれず、ぼんやりしてゐる子供達もある。

この様な子供には自然に遊びを與へて充實させ、更に團體遊びへ導く様指導してあげたい。

でも此の間特に力を入れる訓練事項は朝の御挨拶、おうがひ、自分の持物の仕末等はさる事ながら、國旗掲揚時に於ける態度、心持の涵養である。勿論私共保母は敬虔な心持で注意するつもりである。

會集

各兒自分の思ふまゝに遊びの中に溶け込んで夢中になつてゐる十時頃大體の顔が揃ふので「お集り」といふ一語を放つ。この時遊具の後仕末、紙屑の整理には特に氣をつけて指導をなす。遊具等使用した人のみ片附けるのではなく使はぬ人もお手傳ひして早く片附ける様にする。

おうがひしてから、保育室に整列し、誰がお休みしたか調べ、マーチに合はせて遊戲室に入り年少組と一しよになる。登園して居ても未だ見なかつた友の顔、年少組の弟や妹達、先生方や皆さんに御挨拶をなしてから年少組のお手本となる様にと約束をする。ピアノに合せ唱歌遊戲を和やかな感じの中で繰返す。

唱歌遊戲は個人的のものより二人組でする様な團體的のもの、現在の子供の生活に一番近い季節及時局に關したものを選んで見た。これにより子供は團體生活の喜びを感じ、これが後の社會生活の第一と言ふべきものとなるであらう。喜びを通り過ぎて脱線せぬ様緊張した態度と心持を作る様に心掛ける。

お話

會集の喜ばしい和やかな氣分で先づお部屋に入り御用をすまして靜かに落付いてから一ヶ所に集めてする。「何のお話しませうと聞ふと、八分通りまで必ず「ヒョーキのお話」と答へる子供達である。子供の生活に接近されてゐるものであり、又憧憬の的であるヒョーキ、後の兵隊遊びへのよき誘導となるであらう。方法もいろいろあるが今日は先づ繪本觀察、説明、問答より入り、童話に至らうと思つて居る。今日は特に脇見等して脇の人とお話しせぬ様お手々はお膝にして聞く時の態度を指導する。お話を聞く事によりヒョーキへの興味は一層煽られる事であらう。

手技

一週間計畫の兵隊遊びの準備として今日は軍帽と看護帽とをつくる。

方法は幾つもあるけれど便宜上男女に分けて、男には軍帽、女

には看護帽とグループにしてやらせる。自分で出来る事は自分でやると言ふ自治的習慣をつけてゐるので、糊及び用紙の配布は子供に委せる。

畫用紙に輪廓丈謄寫したものを配布し、男児にはその色は何色に塗るかを問答してからはつきりした色を認識させ、その後とりつかせ、女児にも同様取扱ひ、赤十字章に注意、クレオンの使ひ方にも注意し今日は特に糊のつけ方を指導す、一ヶ所ばかり或は眞中ばかりつけぬ様一體に同じにつける様指導す。後仕末はお當番をきめてさせる事もあるが今日は各自が糊刷毛は必ず洗ひ落してしまはせ、紙屑は必ずちり籠に収めるお約束を守らせる。

自由遊戯(友達さがし)

手技作製の完成の速さはいろいろであるから、出来上つた子供の順に遊戯室で遊ばせる。思ひ／＼の遊びに夢中になつてゐる子供はそのまゝでよいが、遊べないものゝために、お友達探しと言ふ團體遊びをとり入れて見た、必ずさせると言ふのでなく、やり度いものだけやると言ふやり方である。これは前にもやつた事があり、とても興味のある、頭の働く遊びである。お友達を決めて二人一組でピアノの聞える間反對の方向によくマ、イチに合せて歩きピアノが止まると、自分のお友達を探し出し、

探しおくれて、鬼に捕へられると二人ともぬかされるのである。見つからなくとも泣いたりせず一生懸命見つける事をお約束す。この遊びにより注意力は練られ物事が敏捷になり、素早い子になるであらうと思ふ。

お辨當

遊びの飽きた頃、そろ／＼お腹もすいて来る。

保姆は手早くお机をふき、お湯やお盆の用意をして整理された中に、「お辨當の御用意」と知らせる。此の時はどの子も／＼もすぐ集つて来る。お手々を洗ひ、おうがひしてバスケットとお盆をもつて暖飯器の中のお辨當を貰ひに来る。この時先生に對して、「有難度う」と言ふお禮の言葉を缺く事を忘れさせない、御茶碗にもりよく嘯む事、残さぬ事、ごはんをこぼさぬ事は勿論の事、今日はお食後は少し休んでから遊びにとりかゝる様にとお約束をし、一同揃へてから「戴きます」と言ふ聲と共に戴く。子供の所を一廻り見て、偏食、榮養状態、分量等に一應目を通しあまり極端なる子供がある時は家庭と連絡とつて注意をする。この時が幼稚園の中で一番たのしい一時であらう。いろいろ語り合つてゆつくり戴く。後仕末のお當番は毎日二人づつ代る／＼お盆をふき、もとの位置に片附けておく。椅子等もお行儀よくならべる。

唯食へるだけでなくその作法、食事作法と言ふものに充分注意する。

自由遊戯(紙芝居)

こはんも戴いた、思ふ存分遊んだ、子供達の身體は些か肉體的疲勞を感じた頃、靜かにお座敷に入れて紙芝居を見させる。上靴の脱ぎ方、坐つた時のお行儀、見る時の態度にもよく氣をつけさせる。

「雀のお宿」と「桃太郎」はもう子供が何回も聞いた昔物語りである。きれいな音楽を聞き、美しい繪を見ながら中には子供獨特の夢の世界、空想の世界に自分を生かして行く子供も多いであらう。そこで今までの身體の運動に對して情操陶冶の一端が得られ感情が洗練される事であらう。

おかへり

そろ／＼お母さんのお側がなつかしくなる頃、「おかへりの御用意」と言ふ言葉と一しよに仕度に取りかかる。エプロンの紐がとけて居ないか、ハンカチが落ちて居ないか等、服裝其の他に細心の注意をし、手落ちのない様に注意し、オーバー等は出来るだけ、自分で着させ、かけられないボタンだけをして戴く様にと言ひきかせ、人を頼らない習慣をつける。

うがひをすませ、バスケットを提げて保育室に整列する。おか

へりと言ふと子供の心は急ぐあまり、先を急ぐのでおうがひ臺のあたりで衝突も多いからよく注意する。

マーチに合はせて遊戯室に入り圓形にならべてある椅子にお腰かけて、拍手する事によりすつかり心をおちつかせ、おかへりの時、途中の歩き方、お友達となかよく、より道しないで歸る事をお約束し、先生方やお友達にお別れをつけて今日の生活、樂しかつた事、うれしかつた事等、一日の喜びを胸にひめ、來週も又元氣で登園する事をお約束して可愛ゆき子供の曲に合はせ握手をして家路に向はせる。

福島、郡山幼稚園長 松山 政治

(A)

○貴重な紙面を、私共の意見を述ぶるために割いて下さつた、事を感謝します。

○私共は今回の事變を單なる時局などと考ふる事の出来ない程興奮して居りました。最初から此の事件の衝に當つて居り、自分等が片付けて行かねばならぬ様な責任感に打たれて居つたものであります。

つまり職員一同は事變に當つて冷靜になり得ずに絶えず熱心に忠

君愛國の思想に燃えきつて居つたものであります。

職員は時局の進展に堪えず眼をさらし如何に前途の成行くべきか。如何にこれを保育に織り込行くべきか。について語り合つて居りました。

其の大綱とも云ふべき事、又幼児に屬してゐる領分については會集を利用して、園長から又は主任保母から其都度お話があり、更に各保育室では保母が布衍して色々の事實を通して聞かせました。従つて幼稚園の子供は時局の話を聞くことに熱心で又よく知つて居りました。

○或時は遊戲室の壁間に北支要目の地圖を掲げて毎日戦況の進展に印を付けて示してやらうか等と語つた事もありましたが、それでは餘りに突飛にもなり相當無理にもなりそうなので實行せすに止めました。

○毎日庭園で國旗を掲揚する際には訓話を與へて皇國のいや榮に適切なる心を湧かさしめ、其の眞心を表はす機會を作りました。

○縣社は我が園から近いのを幸ひ、度々參拜して、皇軍の戦勝を喜び、その將士の武運長久を祈りました。

そうしてゐる中に子供の家庭から應召兵が出ました。園長以下の職員は、その子供の家を訪問して御祝儀を差上げ愈々御出發の際

には其の組の先生と子供とが御見送りを致します。當園から十一人の出征者がありました。おしなべて出征兵のある御家庭は、此事變に夥しい關心をもたれ、忠君愛國の思想も濃厚になれますので、國家觀念の上から幸福なことだと存じて居ます。

○さなきだに、近頃の子供達は、自分に關係がなくとも兵隊さんの出征にはその歡送に無中になつてゐます。而して今やそれが他人事でなく我が友達の家族の人の上ですから、それは極めて眞劍なものがあります。

○國民精神總動員強調週間中には、時局を幼児の保育に織り込むに色々適切な日がありました。「出征將士感謝の日」などその一つであります。我園ではこの日、會集の席で出征家族の子供を全部前面に呼び出して「お父さんがお留守の爲め淋しいでせう。お父さんは今何處で戦争してゐるの本當に有難いですネ」と慰めてやつたり、又は謝意を表しなごしました。一同も感激して其様子をよく見てゐます。

その日に保母は家庭を訪問致し、戦場に行かれた後の状況や、お便りの有無等御伺ひ致し、聊かのお菓子等差上げて御慰問申上げて參りました。

○明治節の日には子供の親達も前々から申合せてありますので、相當參列して下さいました其式の後を利用して出征將士の母

子共に相揃ふて前面に出て頂き、はつきりと出征兵士であること
を意識させ、今日の祝意に併せて感謝と慰安との意を表したので
した。勿論多少の贈物をさし上げます。相當面目を施された感も
あり教育的にも意義の深かつたことと感じ銃後の護りに力強さを
示した事が出来たと信じます。

○我が園の出身者中からも應召された方が中々ございまして、
園長と主任保姆の許(園長夫妻は園創立三十二年になりました)へ
暇乞に來られます。その折子供が歸らずに居りますならば幼児の
前に之を引合せて出征の感激を新にし、その門出を御祝致しま
す。幼児は驛への見送りは遠慮致しましても幼稚園の門前まで
は、日の丸の旗を掲げて萬歳々々を稱へつゝ御送りいたします、
國旗はたやません勇ましいものです。その時には丁度御兄様で
も御送りする様な氣分で歡呼の聲も一と際はげしいものがありま
す。

○そして我が園からは事務の係であつた管輝先生が十月初旬に
應召される事になりました。それこそ他所事ならず我が家の事の
様な心して毎日歌つてゐた軍歌を歌つて、賑々しく濃厚な御歡送
を致しました。

○當園では、毎年『保育寫眞帳』を發行して満了兒に配ります
が、今年の如き事變に際しては、少しく趣をかへまして、『芋掘の

日』に、畑の側で出征兵の母と子とを、とり立てゝ別にいたし、記
念寫眞をとつてこれを戦地に送り、銃後に於ける母子の無事な姿
を見て頂くと共に、この寫眞を永く記念帳に止めました。

○今や北支に上海に南京に、暴戾なる抗日支那の爲に嚴寒と戦
ひつゝ、身命を賭して御國の爲、東洋平和の爲に奮然と鷹懲の劍を
取つて居られる皇軍將士へは、唯感激と感謝の心を捧げる許りで
すが、この國難に當つて私共一人々々が自分の責任と思つて立ち
上り、舉國一致の思想の許に幼き子等を非常時の國民として身心
共に鍛練してゆかねばなりません。

(B)

現在の時局が如何に子供に映じてゐるか又その御感想を……
といふ事ですが、現在の時局は宜戦の詔勅があつたのでなく一種
の戦争事變であるから、我等の對外氣分には、或分の相違があり
ます。日清、日露の戦争の時に味はひました様な敵愾心が大變變
つて居ります。

あの頃は第一に支那敵國を「チャン／＼坊主」とか「チャンコロ」
とか稱して、極めて輕侮する様子がありましたが、現在は一切こ
れがありません。近衛首相の宣言が徹底したものが東洋平和の爲
に抗日思想鷹懲の爲にする事が判明してゐる様です。

私共は新聞やニュースで戦線の様子を見聞して戦時談や銃後の幾多の美談等をお話致しますが、大層眞剣に耳を傾けよく解つた様に感心してゐます。

そして我が大日本帝國は正義の國だ、東洋の盟主だ。忠勇無比で強くて正しい日本の兵隊さん。これは幼児の心にどんなに深きさみつけられてゐる事が、お互ひのお遊びにも、何とはなしに語つてゐるお話にもよくその心の様子が伺はれます。

そして又毎日子供の現前に展開される事實には著しい印象を與へられてゐます。

1、出征兵士を見送る状態。幟、旗押し立て、見送る様子。萬歳を叫ぶ歡呼の聲。國防婦人會、愛國婦人會等の今までになかつた服裝、防護團の服裝、等に對して。

2、玩具としての鐵兜。劍。銃の流行竝にその遊び方の上にするばらしいものがあります。

3、歌ふ唱歌が凡て出征軍人見送りの時の歌で壓倒されてゐます。私の園では九月二十八日鎮守祭禮なので例年通り子供達にお祭り遊びを誘引致しましたが、お祭遊びが、活躍性を帯びた遊びであり、喜ぶ事に於ては別に變りはありませんがその掛聲が例年の様な「ワツシヨイ〜」でなくて「天に代りて不義を打つ」と兵士歡送の勇ましか、軍歌になつて昇き廻つた

のは面白いものでした。

今回の事變は今の所何時迄續くか未だ解りませんが堅忍持久の力の必要なことは堅く覺悟させてあります。忠義心の總動員は一時的に流れる事なくもしや長期に亘つても堅忍持久の力で最後の勝利を得なければなりません。

又今回の事變は一足飛に對外的思想を幼児發育の上に夥しく植付けて下さいました。人間の基礎を造る保育者たる私共はこれを契機とし正當なる對外觀念を與へ世界の盟主としての日本の價值を益々發揚する事に御奉公したいと存じます。

(A)

東京、大和郷幼稚園 坂内ミツ

日本全國を舉げて心から日支事變に當つて居る今日、子弟を如何に教育すべきかに就ては、親といふ親は勿論、教育者としては大に考慮を要した處である。けれども幼児はまだ話をした處で戰爭の何たるもわからず、正義の何さへも理解出来ないのであるから、幼稚園ではあまり深刻に印象させ度くない、あつさりと話して置き度いと思ふ。

園内では特別に事變の事を取扱はずとも、家庭に於て聞いて居

るし、世間が騒ぐにつれて其氣分になつて居るのであるから、幼稚園でも自然戦争の話が出る、其時は子供と一緒に話をして皇軍の勇敢なる働きについて話をし、特に兵隊さんの功勞に對して感謝せねばならぬと話して聞かせる事は當然なすべき事と思ふ。

健全なる第二の國民をつくる素地は幼稚園にありといふも過言でない、圓滿なる素地をつくるには圓滿なる身體を要し、圓滿なる性格を要する、徒らに知的教育に偏せぬやう感情教育に力を致す事が大切である。感情教育は何時でも大切であるが、かうした時は上手に之を利用して力を致すべきである、當園では専門家を頼み自由畫を通して幼児の素質を観察していたとき参考の資にして居る。又身體の方面では特に口腔、眼科も専門家を願ひ家庭と協力して萬全を計つて居る。

園として積極的にした事は

一、慰問袋をつくつて送つた事

慰問品は各家庭から持ち寄つて貰つた。

慰問の手紙、自由畫、紙細工の虎、目出鯛、摺紙では三寶、

かぶと等幼児に作らせた。

一、出征して居らるゝ父親には特別に慰問袋を贈つた

一、慰問袋の返事が來た人の是一同に讀みかかせて一緒に喜ん

だ

一、上海陷落の時は、小旗を持たせ村の中を歩かせた

其小旗は幼児に作らせた、南京陷落についても完全に陷落した公報に接した時は直ちに旗行列の出来るやう名々に旗をつくらせ、時の至るを待つて居る。

一、毎朝國旗掲揚をする

開園以來つゞいて居るので順番に當番をきめて其幼児に揚げさせる。揚つた所で白地にあかくの歌を歌つて居たが、事變後は倉橋先生作歌「日本の旗 日の丸の旗」を歌はせる事にした。

一、遊戲や唱歌は兵隊さんのつくものを多く取扱ふ

男兒だけの遊戲は殊に多い、即兵隊さん、進軍、送りませうよ、兵隊さん、鼠の兵隊さん、木の葉の兵隊さん、律動の兵隊、水兵等、代る／＼大將をきめ號令をかけさせた、陸軍の歌は意味がわかると思へぬが全部歌詞を覚え歩兵工兵衛生隊といふ事位わかるので時々歌はせる。

(B)

幼児の話題に事變や時局の話が出る事が多い、まゝごとの時屆け物をする番頭さんの役になつた子供が、おねだんが騰りまし

たといつて居るのを時々聞くがこれも時局の影響の一つであらう。

一部分の幼児であるが、兵隊ゴツコをするに行進だけでは物足らぬ、二組に分れて戦争をしたがる、時々突撃をしないと満足出来ぬらしい、其時は空手にして實力本位、ゲンコツが唯一の武器、顔をひつかく事と頭をしめる事を嚴禁、必ず一騎打にて一人と一人、飽く迄正々堂々と戦はせる、見て居てもヒヤ／＼するほどの力の強い者も居る、突貫の出来る位の勇士の素地を養ふは今にありと思つて、側について見て居るからメツタに手出し口出をせず成行を見守る、勇氣のある末頼もしい者が多い、弱くて一騎打の出来ない人には自分が相手になつてかゝらせる、五人、七人と一束になつてかゝつて来る、弱い人にはお手柔かに、強い人には強く當るやうにして戦ふ事はかなり骨が折れるが、弱い人を強くさせ自信を持たせるには面白い、雙方クタク／＼になる迄戦つてドツカと坐り込んだ時の氣持は忘れられない、年はとり度くないとつく／＼思はせられる。

東京、本郷第一幼稚園 檜 山 京 子

(A)

1、お父様を戦地に送つた幼児が、園では、いつもの様にお友達や先生と、健康で元氣に楽しい日々を過ごせる様に、

2、幼児の自由遊に、戦争ごっこはあつても、敵はあつても「敵は某」といふ事を、はつきり意識させない様に、(敵は敵だけで幼児は満足してゐます)

3、幼児との會話をむづかしい國際問題にひき入れないように。ドイツと仲よくなつたとかイタリーとお友達になつたとか解り易い、明確な事は別として成人にも考へられないような問題に會話がは入らぬうち未然に、子供の世界へ話題を向きかへる様に、

4、「兵隊さんは戦地で寒いのも、痛いのも、睡いのも、空腹もガマンして、一生懸命働いて居て下さるのだから今日のお晝一同丈、好きなお菜をガマンして梅干だけにしましょう」といふ意味で、日の丸辨當を一度實行。其日は小學校の兄弟達も同様のお辨當でした。

5、「私達の代りになつて兵隊さん達が戦地で勇しく働いて居て下さる。其おかげで私達がかうして愉快に、安全にすごせます、おかげ様でお正月も迎へられます、眞當に有難うございます」これは現在銃後の日本國民一人残らずの感謝だと思ひます、幼児にもこの兵隊さんへの感謝を持たせ度く、戦地へ贈る慰問袋を目下製

作中です。

6、明治節、教育記念日に幼児と共に、国旗掲揚をし、宮城遙拜を致しました。

7、銃後の重任を真て雄々しくお父様と二人分家庭で盡していらっしゃるお母様のお手助けが少しでも出来るなら(例へば保育時間延長の如き)これは教育といふより私共保母の御奉公の一として盡し度いと思ひます。

Bの答

1、平時でさへ戦争ごつこの好きな男児達がこの事變以來(と申しても此圖では十一月末から十二月へかけて)どんなに眞剣に戦ごつこをするかは、幼児に親しい方々のどなたもお感じになる事と思ひます。トーチカ、クリーク、塹壕も作ります。タンクも作ります。男児が戦闘帽を作れば女児は赤十字のマークをつけて看護婦になります。擔荷を作り度いといふので、うすべり、を棒に結びつけました、かうした遊びは十二月に入つてグン／＼發展充實して來ました。

2、自由遊に、幼稚園でならはないむづかしい軍歌を盛に口ずさみます。

3、自由畫の紙上で、砂場の自由遊びで戦ごつこの多い爲か、

動作や言葉使ひが自然荒くなり勝ちです。

以上の時局反映は勿論年長児の方が度が強いように見うけられます。地方的にと申しますか郷土的と云ひますか此園の所在地一帯は靜な生活をして居りますので、九月十月の頃はふしぎな程、常の子供らしい、平和な秋を楽しんで居りましたが、大場鎮陷落の旗行列から後、追々砂場や廊下の戦ごつこも盛になつて來て、最近では「蔣介石」などいふ言葉さへ口にする様になつて來ました。勇ましい軍歌もよいのですが、すぎる言葉から、動作から、荒々しさが加はる事は氣をつけなければならぬと思ひます。落葉とおどる事も、風をあげるのも、羽根をつくのも此秋と冬、やつぱし此の子の六歳の秋に七歳の冬に缺くべからざる幼時の生活ではないでせうか。もうちき、私共の忘れる事の出來ない、皇子さま御誕辰のあの感激の朝が廻つて來ます。そして續いてお正月が、クリスマスが。私共は「堅忍持久」を確と自分の胸に抱いて、幼児から一時も離してはならない、健康と喜と力と、幼児らしい朝夕を與へる事に専念し度いと思ひます。

東京市麹町區富士見幼稚園 山村 ときよ

靖國神社の近くにある當園としては、いろ／＼時局下の雰圍氣

につゝまれて過してまゐりましたので簡単に御答へ申し上げます。

(A)

一、靖國神社参拜

當園の方針として酷暑酷寒を除いては毎週日曜日に必ず全園児揃つて参拜に行く事として居りましたが、九月からは「出征兵士武運長久祈願」の團體参拜等で始終境内が混雜いたしますので、他の方々の御迷惑にならぬ様注意して一組づゝに分れ、一週間に一度は必ず参拜に行く事にいたして居ります、そしてその都度、「日本の兵隊さん達が御無事におかへりになります様」に等、小さい聲で言ひながら頭をさげる事にいたして居ります。皆各家庭からも参拜に行くと思へまして「何といつておまゐりませうか」とたづねると、すぐ「兵隊さんが死なない様に」とか「日本が勝つ様」等々言葉はいろいろで御座いますが、とに角「皇軍に對する感謝の念」は「幼兒ながらに」深くきざまれてゐる事を感じて喜んで居ります。

二、時局の反映した遊びの誘導

場所から、九月上旬から十月上旬にかけては大變に戰時氣分が漲りまして、幼兒達の間にもいろいろの遊びが表はれ、共に戰時氣分を味つて居りましたが、とすると亂暴な遊びに、又亂暴な言葉、おもわしくない動作の者が出てまゐりますので、自由遊び

には特別の注意をはらひました。そして戦争ごっこ等には必ず保姆が仲間入りして、あまり長時間この遊びをつゞけぬ様、軍事用品を造るための製作に向けたり、又幼兒の中から敵をつくらぬ様注意いたしました(敵の目標に山、園舎、飛行機等)そして次第に兵隊ごっこに轉じて教練をしたり、射撃の眞似をしたり、軍歌で行進したりして、幾組かのグループに、始めの一二回は保姆が必ず誘導いたしました。それから後は自由に子供同志のグループが出来て年長も年少も入りまじつて「天に代りて」の行進も人員點呼も、ドン／＼パチ／＼も實に氣持よい戰時風景で御座いました。ことに女兒のまゝごと遊びと結びついて、防空演習、出征兵士の見送り等、日常生活をそつくり幼稚園のお庭にお部屋に展開する事もございました。

三、其の他

保姆の心がまへ又用意としては、新聞のニュース寫眞のはつきりしてゐるもの、ことに日章旗の翻てゐるもの、タンク、装甲自動車等は皆切抜いて幼兒の目の届く所に掲示しておきました(しかし取り立てゝ説明はいたしません、聞かれた時に説明する程度にいたしました)戦争のお話は時は設けては話しますが、時々子供等から出るお話をまとめてやる程度にいたして居ります。そしてその都度「支那人皆が悪い人ばかりではない」事を話して「日本

にも支那人が大勢居て日本人と仲よくして居る」事を話してきかせるのですが、どうも「支那人は弱蟲」だとか「支那のチャン／＼坊主」とか「支那」といふ言葉さへ何かわるい言葉の様に印象づけられて居りはせぬかと案じられて、この頃ではなるべく「支那」といふ言葉を口にしない様注意いたして居ります。

世間があまりに非常時氣分たつぷりで幼児等にも何となく落ちきない様感じられた時も間々御座いましたが、それはほんの一時でやつぱり幼児の世界だけに、平和な日常と變りない生活がござられて居ります。こんな時、ほんとうに「大日本帝國國民」として生れた事を今更ながら感謝いたしますと同時に、第二國民の……しかも芽ばへの時を育む重任を授けられた私は「大事な幼児の心身を守り育てる」事を統後の何よりの務と堅く信じて、どんな事があつても「お子様は、しつかり私共でお預りいたしお守りいたします」といふ言葉を日常保育の上に必ず「實行」して、幼児の保健に性情の涵養に益々心を引きしめてあたつて行き度いと思つて居ります。

(B) 現在の時局が反映した幼児の生活いろ／＼

一、自由遊び

(女) まゝごと遊び↓出征兵士見送り、防空演習、看護婦こつ

こ等々

(男) 戦争こつこ↓兵隊こつこ、空防演習等積木にてタンク、装甲自動車等製作 砂遊びにて塹壕づくり、其の他戦時風景いろ／＼

二、自由製作(男)

劍、青龍刀(日本では使用しない事を話して止めさせました) 鐵砲、タンク等

三、自由畫(男)

戦争してゐる所、タンク、装甲自動車、軍艦、等殆んど全部の幼児が書いて居ります

四、其の他

新聞又はニュース映畫の話合ひ、出征した人の話、等々軍歌「天に代りて」「露營の夢」等

幼児の日常生活に變化を及ぼしたと思はれましたのは九月から約一ヶ月間で、其の後はいろ／＼の表はれも少くたゞ防空演習の事は大部印象づけられた様に時々遊びに表はれて居ります。そしてだん／＼日常生活と變りなくなつてまゐりましたが、この非常時氣分が幼児の氣分の上にも大變良い影響を與へております事は今になつてはつきりいたしてまゐりました、大人の感じる非常時氣分とは違つた感じでは御座いませうが「神様にお詣りする」「兵

隊さんは大へんだ」「お辨當のおかずは何んでも食べる」「飛行機やタンクを造るのには澤山のお金がいる」等々々々この際「日常生活には感じられない」「幼児ながらの非常時気分」を多分に感じられるのでございます。我々保育にある者としては充分この機會を利用して（言葉がわるうございですが）日頃取り扱ひに困つて居る特別な幼児の保育に、生活訓練に、充分努力して行き度いと思つて居ります。（昭和十二、一二、一〇）

大阪市立中大江幼稚園 米 山 エ ン

（A）非常時局に對し保育上留意せし點

園兒一同に話した要點（九月一日の始業式に）

日本と支那とが喧嘩を始めました。

元から、日本と支那とは兄弟同志ですから、皆様が一寸した事で、お兄ちゃんやお姉ちゃんど喧嘩をする様なものです、然し今度の支那の御役人様は、とても日本を嫌つてこんな戦争と云ふやうな事になりました。然し今に支那の御國の人達が、悪るかつたと氣がつくでせう。その時は皆様に慰めて可愛がつてあげませう。今皆様と同じやうな支那の子供さんが、その戦争中の町に居て、お父さんや御母さんと、こわい／＼目をし、

食へるものもなく困つて居るでせう、ほんとにお氣の毒な事ですね、日本の兵隊さんからお米や、お金や、お菓子を買つて、喜んだ事を覺へて居てくれるでせうが、中には、日本の事を悪く思ふ子供さんも出来て來ませう。

皆さんが大きくなつた時に、又二度とこんな戦争が起きないやうに、今の兵隊さん達は御自身の命をお國に捧げて支那のわからずやの兵隊さん達を懲めて下さるのです。ほんとに勿體無いことですね。

天皇陛下様をあがめ、御先祖を拜み、兵隊さん達の上に御苦勞の少ないやう、お國に居る者が努めませう。

そして、同じ御顔の色や、容ちをして居る日本と、支那は一緒になつて仲よくする様に致しませう。

會集の時に（九月二日以後毎日）

新聞記事に表はれたる國際及戦争記事中特に子供の心に印象付けらるゝものゝ中よきもの、將來の大國民としての襟度を養成すべきもの、勇壯なる日本の將士の奮戦振りや苦闘振りを具體的に話す。

例一

○食糧がなく、五日も六日も玉葱の生を齧つて行進、進撃した事。

○飲料水がなく、自分の尿水を呑んだ事。

○風呂へは六十日目にはいた事、その風呂も鐵の釜が置いてあったのに水を入れて焚いてはいつた話。

○クリークの中へ、一日一夜つかつて居たこと。

○飛行機から食糧投下をした際、中途で倭が解け、白米の雨が降つて、下のぬかるみへ皆落ちてしまつた事。

○彈丸が盡きて、石ころを投げつゝ一人になる迄戦ひ續けた兵隊さんの強さ。

○敵彈うけつゝ飛行機に火をつけ、日の丸の旗を振り乍ら友機に別れを告げて、

天皇陛下萬歳を叶びつゝ敵の居る頭の上へ、自爆し乍ら落ちた話。

○戦争中でも、支那の人民達を可愛がつて白米や、お金をあげたり、親に別れた小さい子供達を可愛がつてやつた日本軍人の心の廣い温かい事、等々。

幼児に話す材料中特に注意した事は、

1、支那の國民を相手に戦争をして居ない事、國民は皆よい人達である事。敵愾心を挑撥しないことを特に注意す。

2、日本は今大きな氣持で、支那の役人の間違つた事を、反省させて居る點。

3、幼兒をして、餘りに戦争意識を驅り立てぬこと。

4、材料は、日本軍人として、愛國心に燃へ、祖國の親兄弟を想ひ。

天皇陛下の御鴻恩に對し奉り、一死報國の念に燃え立つて居るもの限り、取り入れて聞かせる。

九月中旬より

會集の時に、三十秒の默禱を捧ぐ。

その心は

天皇陛下の御恙なきを祈る

祖先を思ひ、父兄の健康を祈る

皇軍將士の武運長久を祈る

其他、

○特に幼兒保健に留意し、體位向上について

運動、榮養、休憩につき、諸般の事項を實行す。

例へば、

○徒歩を多くする遠足會

○運動中心の自由遊び

○從來より實施の國民體操につきては、家庭までも幼兒の力で誘ひ出す事

○經濟的方面につき

○廢物利用の製作品

○お小遣の貯蓄

○物質を大切にすること

B、非常時局が幼児の上に反映せし事項としては、

1、軍隊に關する遊びが斷然多くなつた事、

鐵砲と鋤とで山や園庭の木を利用し、砂場に塹壕を堀り、兵隊ごつこが全盛を極めて居る、女兒は、國防婦人會の眞似をなし行進し、出征軍人を送る様を眞劍にやつて居る。その軍國調は、實にすばらしい保育材料である。

然しこれは自由遊びの間に於てなされるのであつて、保育の方針は、何等これによつて變更することなく、綜合保育細目により進行して居る。

其他、保護者に對しての注意

婦人會と提携して、部内全部の婦人の總動員をなし、非常時認識の婦人大會を開催、實行事項を申し合せ、必行事項はビラにして、各家庭にもれなく配布し、目につき易い處に貼らす。

その必行事項中

家庭を守れを強調し、子女の教育に専念することを第一となす。

大分縣 成蹊幼稚園

A、時局に於て幼児教育上注意してゐる事

一、平素保育の軌道より自ら先導して非常時局の保育軌道に進み變へる事無きも街頭、又家庭にて斷片的乍らも幼児に映じた時局に對する觀念見聞を無視する事なく、其の時局に對する見聞等を取り入れ、眞の姿を失はず自覺ある幼児の養成に努む。

二、幼児の一番良き指導者たる母親が非常時局に際し多忙にして留守勝となり、大切な幼児の身邊に觀察の眼届き兼ね、從つて善良なる環境を造らず、幼児は粗暴、又神經質、注意力散漫となる恐あり、依て保姆は家庭教育を補け能ふ限り幼児の身邊に注意す。

三、今次の支那事變に際し、幼児に堅忍持久、盡忠報國の精神の涵養に留意し國家の恩惠と皇軍の勞苦に對し衷心感謝の意を捧げる事に努む。

四、幼児へ支那を漸次理解せしめ、支那人に對する侮蔑心を戒むると共に、大國民としての養成に留意す。

實踐要項

一、常に神佛崇祖の信念の涵養をなす事。

二、園の内外を問はず規則を遵守し緊張したる生活をなさしむる。

(イ)登園並に歸途の時間を守る事。

(ロ)交通機關の邪覺をせぬこと。(ハ)左側通行。

(ニ)繪本、玩具の使用を大切にし之が整理整頓をなす事。

(ホ)一定の時間以外に間食をせぬこと。

(ヘ)起床就寢の時間を守る事。

(ト)外出の時は必ず父母の許可を受くこと。

三、堅忍持久、勞苦缺乏に堪へしむる事。

(イ)集會の時の作法 (ロ)泣かぬ事。

(ハ)缺席せぬこと。

四、喜んで勤勞に従ひ奉仕事業に貢獻する事。

(イ)簡單なる家庭の使ひ。(ロ)衣服所持品の整理。

(ハ)掃除の手傳ひ。(ニ)公共物を大切にすること。

五、目下の我國の經濟狀態に鑑み幼兒として出来る限りの節約をなす。

(イ)衣服及び所持品を質素にする。

(ロ)學用品及び調度品を節約して丁寧に用ふ。

(ハ)金錢を濫費せず貯蓄する事。

(ニ)紙を無駄に用ひぬ。

(ホ)金物類ゴムは可る丈使用せぬ事。

B、時局が如何に子供に反映するか

一、戰況時事問題の速かに報道される、新聞ラジオ映畫に對する關心を持ち、其の日の報道を幼稚園に齎し發表する向あり。

二、飛行機に對する智識欲と親しみをもち空の護の大事な事をも辨へ防空演習の模倣遊戲が盛に行はる。

三、自由遊びの中にも味方同志結束して敵方に抗戰する態度眞剣なり。

四、軍事向の繪本を幼稚園に持参なし解答を求むる。